

第1回・第2回「のせのセッション」を開催しました

— みんなで語る、これからの能勢の学びと居場所 —

第1回、第2回ともに28名の方々にご参加いただきました。

「能勢での暮らしの、人・時間・場所」をテーマに、世代や立場を越えて、さまざまな声が交わされました。

● 全体の雰囲気について

アンケートでは、「参加してよかった」「話しやすい雰囲気だった」「他の人の考えが聞けてよかった」といった前向きな声が多く寄せられました。

一方で、「この話は、この先どうつながるの?」「次は何をするの?」「最終的に何ができるの?」といった、“その先”を意識する声も見られました。

「話して終わり」ではなく、どう整理され、どう形になっていくのかを、これからも丁寧にお伝えしていく必要があると感じています。

● 参加者の顔ぶれから見たこと

これまでの参加者には、「女性の参加が多い、子育て世代の方が多い、男性や、能勢で長く暮らしてきた方はやや少なめ」といった傾向がありました。

これは、現在の図書館の利用状況とも重なる部分があり、今後の施設像を考えるうえで、大切なヒントだと感じています。

● 子育て世代の声と、その先の時間

ワークショップでは、「子育て世代への配慮」を意識した意見が多く出ました。子育て期は、思い出が濃く刻まれる大切な時間です。

一方で、人生は長く、子育てが一段落した後の時間のほうが、実はずっと長い。

これからの能勢町を考えると、子育て期だけでなく、その先の人生も自然に受け止められる場所、そんな視点も大切にしたいと感じました。



● 「使う人」だけでなく、「見守る人」の視点も

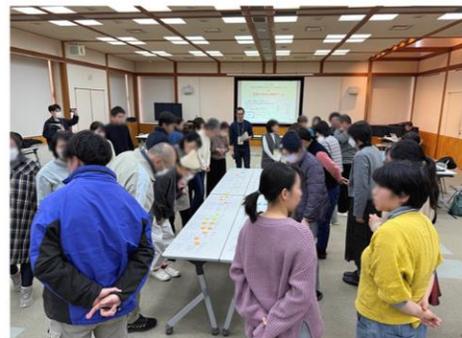
正直なところ「図書館って、誰が一番使うんやろ？」そんな率直な声も、よく耳にします。

ただ一方で、「自分が行かなくても、孫が楽しそうにしていたらうれしい」そんな気持ちも、町のあちこちで聞こえてきます。

“使う人”だけでなく、“誰かが楽しんでいる姿を見てうれしくなる人”そんな存在も含めて、居場所を考えていけたらと思います。

● 元気な声が、町の空気をつくる

今回、特に印象的だったのは、参加された女性の皆さんの前向きさと行動力でした。笑いながら、迷いながら、でもしっかり考える。そんな姿そのものが、場の雰囲気をやわらかくし、町の元気につながっているように感じました。



● 次回以降に向けて

第1回・第2回を終えて、見えてきた課題もあります。

- ・ 特定の世代に偏りすぎないテーマ設定
- ・ 参加していない人、声を出していない人の存在を意識すること
- ・ 能勢らしい感覚や価値観が、自然ににじみ出る場づくり

「のせのセッション」は、意見を集めること自体がゴールではありません。無理なく、長く、気がつけば“あってよかった”と思ってもらえる場所。そのための、ゆっくりとした対話のプロセスです。

● 次回も、参加をお待ちしています

「ちょっと覗いてみようかな」「今回は聞くだけでもいいかな」そんな気持ちで、ぜひ次回の「のせのセッション」にご参加ください。能勢のこれからを、みんなで少しずつ描いていけたらと思います。

QRコードを読み取り、皆様のご意見を聞かせてください。
Instagramのフォローもよろしくお願いします。

お問い合わせ

能勢町教育委員会生涯学習課

TEL : 072-734-2452

Email : syogai@town.nose.osaka.jp

意見フォーム



アンケート結果



のせのセッション
公式Instagram

